

第278回  
株式会社テレビ新潟放送網  
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成23年5月23日（月）午前11時00分より
- 2 開催場所 テレビ新潟放送網本社会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員7人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
吉原 浩	委員	碓井 真史	委員
大久保 千春	委員	田村 明子	委員
尾畑 留美子	委員		

会社側出席者

代表取締役社長	前川 磐
専務取締役（報道・制作・国際担当）	奥野富士郎
常務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長 兼 報道部長	稲田 裕之
編成部長	中川 保彦
制作部長	小木 裕介
合評番組プロデューサー	羽田 朗
事務局	海津 智洋 紫竹 聡子

## 4 議 題

### 1) 番組合評

#### 「夕方ワイド新潟一番 報道特集 シリーズ東日本大震災」

[放送：3月22日（火）「一万人避難…『民泊』受け入れも」]

[放送：3月23日（水）「“地元で生きたい”被災住民の苦悩」]

[放送：3月24日（木）「柏崎刈羽原発の津波対策は…」]

[放送：3月25日（金）「被災地で命救う DMAT」]

[各日「夕方ワイド新潟一番・第3部（17:50～19:00）内コーナー」]

（説明：番組プロデューサー 羽田 朗）

### 2) 会社報告

① 4月の視聴者の意見。 （報告：番組審議会事務局）

② 講じた措置、公表など定例の報告等。 （報告：番組審議会事務局）

### 3) その他

## 5 審議の概要（委員の意見）

会社側から、この番組は今年3月11日の東北大震災からNNN報道全国ネット番組が続き、なかなか新潟のニュース枠が取れなかった状況の中、ようやく3月22日から25日まで4日間で県内での震災関連情報をお伝えするニュース枠を確保できたことで、大震災発生後から取材を続けてきたものを4回シリーズに纏めた形でお伝えしたものであること。県内に現在8000人を超える人が避難されており、今回の4回放送の後も大震災1か月後、2か月後の節目はもとより都度、避難されている人達の現状や思いをニュースでお伝えしていることなどを報告した。

●大震災後わずか10日間くらいの期間で丁寧な報道をしてくれたと思う。4回シリーズは被震災経験地ならではの取り組みが取り上げられていて、民泊の受け入れ、新潟県自体の被災の様子、柏崎刈羽原発、そして災害時医療という優先度の高い順によく纏めて伝えてくれていると思った。

●大震災後、煽られるような刺激的な映像が連日続いており、違った形の震災報道を求めていたところにちょうど応えてくれた気がした。

●震災報道は東北地方ばかりが取り上げられていたが、実際には茨城県や千葉県の被害も多く、業界によっては茨城県は宮城県と同じくらい大きな被害を受けているところもあるとも聞く。新潟県内や長野県など伝えられていない地域のことにも報道で伝えて欲しい。

●東北以外では県内の十日町市や津南町、長野県栄村も被災しているが、この時期に静岡県でも震度6クラスの被災をしているはずだがほとんど報道されていない。落ち着いたら全国ネットワークを利用してその後の状況などを被災地すべてについて報道してほしい。

●民泊受け入れは、中越地震の時に支援を受けた恩返しとして素早く小千谷市や三条市などが対応しており、同じ被災地だから心の痛みがわかるという新潟自治体の対応に暖かい気持ちになった。

●民泊受け入れでは、家族を亡くして南相馬市から避難してきた主婦が震災後間もないのに小千谷市民に感謝の言葉を気丈に話す姿に心を打たれた。気丈に淡々と話す映像には地震のショ

ックと恐怖と悲しみが消えることなく残っていることを伝えていたと思った。

●大きな避難施設を取り上げることが多いのに民泊受け入れを取り上げたのはよかった。

●震度 6 弱を記録した十日町市に十年前に移り住んだ元報道カメラマンの苦境を伝えながら足元の県内被災状況を報道してくれているのは良かった。

●十日町市の被災レポートでは元報道カメラマンで他県からの移住者という特殊な対象に焦点を合わせすぎた感じがする。地元の住民を一人くらい取材対象に加えていたら地元の人たちの今後の生計のあり方など具体的にわかりやすかったのではないかと思った。

●今回の県内被災地は集落存続が危ぶまれている状況が続いている。今後の続報を期待したいと思った。

●原子力発電の防災対策については難しいことも多いが、モタモタと判断と決定が伸びているうちに多くの人の未来がどんどん失われてしまっているのではないかと感じた。

●地震発生時に福島第一原発 3 号機に居た男性の「日本、地球が終わってしまうのではないかと思った」という生々しい証言から恐ろしさが伝わってきた。

●DMAT 高橋医師の「災害医療は二足の草鞋のように見えるけど、困っている人を助ける意味では一足の草鞋なんです」という言葉が印象深かった。

●看護師へのインタビューで「あのおばあちゃんにまた会いたい」と言う時の映像では、黙々と頑張ってきた自分の思いや張り詰めていた気持ちがどっと出た瞬間というのが見ている方に

伝わって来て凄いインタビューだと思い、映像の力を感じた。

●DMAT 以外にも県からの様々な医療支援があったはずで、DMAT だけでない全体の医療支援状況も伝えて欲しかった。

●4 本の報道シリーズを通じて「人間を助けられるのは人間だけ」という思いを強くした。

●被災地の隣県メディアの役割はなんだろうと考える時、まず生活必要情報を伝え、次に被害状況を全国に発信して支援を求め、更に地元の人々の活躍を伝えることだと思う。これが地元の復興に繋がると思う。民泊などの地元の頑張り、DMAT スタッフのカッコいい専門家の頑張り、これらの報道が隣県のメディアとして更なる支援を後押しし勇気を与えるのだと思う。

●4 本の災害報道の目線がそれぞれの現地の人たちと同じ目線でずっと撮り続けているのがとてもよかった。見ている人も同じ目線で見ることができる。現場の実態が非常にリアルに伝わってくると思った。

●災害シリーズの 4 本が個人の問題から社会の問題へと問題を広げていっている。個人の問題から町の問題、エネルギーの問題、そして災害医療の問題へと広がっており、とても効果的な編集だと思った。

●4 本の震災報道シリーズを夕方のローカルニュースの柔らかいタッチで伝えていることが、とても効果的でよいと思った。

## 6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

4月……148件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成 23 年 4 月 25 日) から 昨日(平成 23 年 5 月 22 日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

## 7 審議機関の答申または意見（前回審議会）に対してとった措置

- 1) 前回、第 277 回審議会では「コメリヒューマンスペシャル 命のかぎりムスタンに生きる～第五章～」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。
- 2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

## 8 今回の第 278 回放送番組審議会の公表

- 1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。
- 2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。
- 3) インターネットの T e N Y ホームページに議事概要を掲載します。

## 9 参考事項（委員への配布資料）

- ・ 4 月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・ 4 月の単発番組制作一覧
- ・ 民間放送新聞（4/23, 5/13 号）
- ・ BPO 報告（No. 96 号）

以上